

2024
8

FLAP.



P.2 **オリンピックの種** 倫理・哲学グランプリ

P.4 **入門! 法学**

P.6 **PASSPORT #5** 留学体験談



Komaba FLAP.
for learners and pioneers.

オリンピックの種

連載

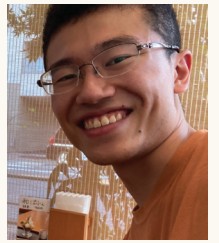
倫理・哲学グランプリ編

今回のOB・OG

池田 淳一郎

筑駒71期OB/東京大学教養学部理科III類2年

日本倫理哲学グランプリ 2020 金賞 国際哲学オリンピック 2022 in Lisbon 入賞 (上位 30%)



学術オリンピック系大会を中心に、予選申込締切の近い、ホットな大会に関するコンテンツをお届け。

「蒔かぬ種は生えぬ」、ちょっとしたきっかけでの挑戦が、貴方の人生を大きく変えることも。この機会に是非、様々な大会へチャレンジしてみましょう！

代表OB・OGに聞く！ 出場のすゝめ

哲学グランプリでは何をする？

例えばデカルトやプラトンといった、有名な哲学者の言葉が課題文として提示され、それについて自分でエッセイを書くという大会です。形式についてですが、予選(日本倫理・哲学オリンピック)は、日本語で締切期間までは時間無制限で各自2000字程度のエッセイを書いてHPの応募フォームに提出するという形で、日本全国から100人以上が参加しています。本選(国際哲学オリンピック選考会)は、予選で入賞した10人強のメンバーがオンラインで集まって英語で3時間ほどの制限時間の中でその場で与えられた課題文についてのエッセイを書く形となっています。本選で選ばれた2人が出場できる国際大会も、本選と近い形式です。

どんな問題を解くの？

大会自体はエッセイ一本勝負で、哲学の知識問題などは全くありません。実際に僕も、哲学の細かな知識を持っているわけでは全くありませんでした。そして、エッセイの内容についても、課題文のテーマに向き合っ、自分で問いを立て、自分なりに論理的で一貫した具体的かつ説得力のある文章を書けるかということが大事になってきて、決して哲学者の実際に言わんとしていたことを踏まえる必要はありません。では何が必要かというと、ものを考える考え方自体に日頃から触れておくことかなと思います。例えば、言語についての課題文であれば、「この世に言葉がなかったらどうなんだろう？」などの日頃の思考実験が生きてきますし、人を知ることについての課題文であれば、人を知る状況を具体的に考えて「自分を知ることと他人を知ることとはどう違うのだろうか？」といった問いだて、対比、場合わけなどといった考え方の引き出しを日頃から持つておくことが大切です。もちろん、本選以降は英語で課題文を読んでエッセイを書くので、論理的な文章を英語で書く際に必要なフレーズや、少し抽象度の高い英単語を最低限知っておくことは必要だと思いますが、結局は自分の言葉でしか自分の論理を展開できないので、マニアックな哲学の英単語を知っている必要はありません。かかる労力についてですが、日頃からちょっとした時間に思考をメモ書きしておくなどすれば、実際に文章にするのは1日から2日で終わるという感じです。

哲学グランプリの特徴・魅力

細かな知識が必要とされないので平等にスタートラインに立てますし、自分で問いを立てながらとことん物考える経験は新鮮です。僕も初めて予選に出場した時は、移動中にも問いが際限無く浮かんで来て、締切ギリギリまで格闘していました。初めは課題文の原著を買うなどしていましたが、結局は自分の言葉で書くためには自分の頭で理解可能な抽象度に落とす必要があると知り、自分の言葉で世界を見る枠組みを作っていくことの魅力も感じました。また、本選や国際大会で初対面の仲間とすぐ打ち解けて哲学対話をする時間も魅力的ですし、何よりも国際大会では高校生だけで寝食共にしたり毎日パーティーを楽しんだり人生で一番刺激的な体験ができました。

現在に繋がっていること

哲学以外の色々な探究活動の場面においても、自分で問い・仮説を立てて考察しその中に新たな問いを見つける経験が生かされていると感じます。例えば、顕微鏡で局所的な現象を見て(具体)、メカニズムについて仮説を立て(抽象)、それが合っているか他の場所でも観察してみる(具体)といった抽象と具体の往復は、研究の過程の一つです。また、英語で論理的な文章を書いた経験は、論文を読んだり他人に紹介したりする時に役立っています。さらに、脳科学的に意識とは何かといった問いに迫れたり、未だ謎の多いヒトの行動の捉え方にも繋がっています。この哲学の守備範囲の広さの源はズバリ、哲学の本質が、いわゆる哲学研究でなされるような哲学者の思想の延長線上での考察にとどまらず、前提を問い直したり世界を見る枠組みを作ったりとことん自分で「考える」ことにあるからでしょう。その本質を教えてくれるのが、このオリンピックです。

問題にチャレンジ!

具体化、抽象化、対比、場合分け、思考実験など様々な考え方の引き出しを持って、自分なりに課題文に向き合い、論理的、具体的かつ一貫したエッセイが書くことが大事です。

“To know others is wisdom; to know oneself is acuity. To conquer others is power, to conquer oneself is strength.”

Laozi (6th c. BC), Daodejing. A Philosophical Translation, ch.33, ed. by Roger Ames and David L. Hall. New York: Ballantine Books, 2003

2022年 国際哲学オリンピック リスボン大会 課題文②より

解答・解説は公式LINEから配信!
登録方法はP.8→

オリンピックへの道

7
上旬

HP上で課題文発表

9
/30

エッセイ提出〆切
(提出をもって申し込み)

2
中旬

国際哲学オリンピック選考会
(オンライン・その場でエッセイ提出)

3-4月

代表選手発表
(提出をもって申し込み)

先生方とエッセイ練習

5月

国際哲学オリンピック

オリンピック候補生へのおすすめ本

哲学的な考え方に触れられる本を紹介します。

英語で物を考えられるようになるために、英語で哲学的な題材に触れておくことも大切です。

寝ながら学べる 構造主義
内田樹 著

<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784166602513>

- Justice: What's the Right Thing to Do? Michael J. Sandel 著
- ハーバード白熱教室講義録 + 東大特別授業〔上〕 / 〔下〕 マイケル・サンデル著
- Harvard University YouTube 講義
- Sophie's World Jostein Gaarder (著), Paulette Moller (翻訳)

左: Justice: What's the Right Thing to Do?
Michael J. Sandel (著)
右: Sophie's World
Jostein Gaarder (著), Paulette Moller (翻訳)



左: ハーバード白熱教室講義録
+ 東大特別授業〔上〕
下: Harvard University YouTube 講義



日本倫理哲学グランプリ過去問

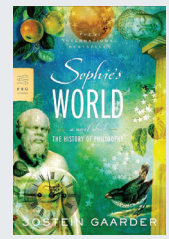
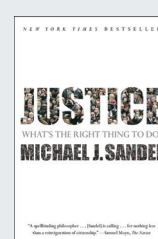


<https://jpe-gp.org/>

国際哲学オリンピック過去問



<https://www.philosophy-olympiad.org/>



大事な考え方である座標や暦
についての理解の確認ができ
て助かった記憶があります。

法律は、言葉によって作られた、社会を構成するルールです。

法学って？

法学学習は、解釈や立法を通じて作られたルールを理解し、具体的な事実関係のもとで妥当な結論を図れるように運用する力をつけるプロセスです。このことを「リーガルマインドを身につける」と言ったりします。

法律の勉強は英語の勉強に似たところがあります。六法を全部覚える必要はありませんが、それでも意味を理解して暗記しなければいけない単語はあります。条文や判例にも読み方の

ようなものがあり、これを習得するのは文法学習に似たところがあります。

数学に似て、論理を積み重ねるとい側面もあります。ただし、法学の議論は自然言語によって、明確な答えのない問題について他者を説得するためになされるところが違います。

社会の勉強に似て、社会の仕組みについて理解を深めることができます。税金や相続はどうなっているのかなど、いろいろなことを知ることができて面白いです。

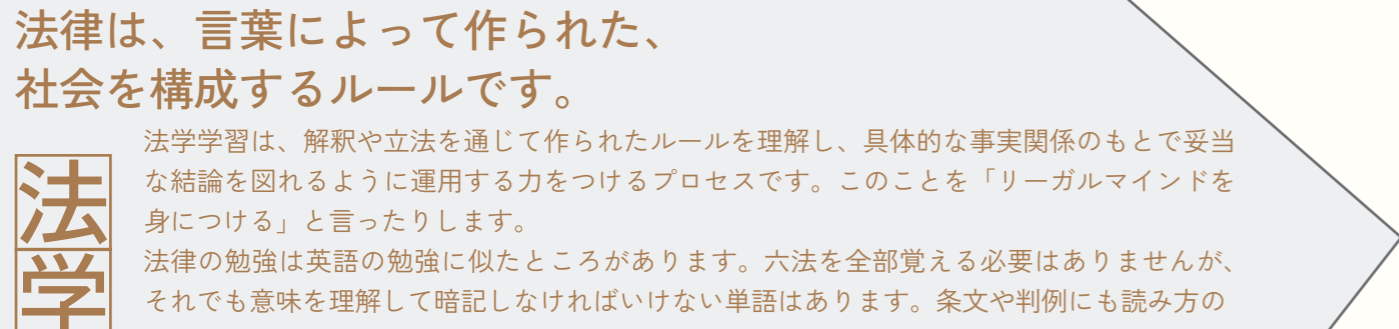
さまざまな価値や利益の対立の中で、望ましいルールのあり方について考えられるのが法学の魅力です。

例えば、「会社は株主のもの」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。株主が、会社を経営する取締役を株主総会で選ぶことができる以上、会社は株主のために運営されるべきであるという考え方です。

株主は、債権者（会社にお金を貸している銀行をイメージしてください）の取り分を差し引いてなお会社にお金が残っていなければ、配当などを受け取れないのが原則です。そこで、「会社は株主のもの」と考える人は、株主の取り分を増やすため、リスクを取って会社を成長させることで、ひいては社会全体が豊かになると主張します。しかし、株主は出資した額以上の責任を負わない（有限責任）から、リスクを取りすぎてしまうかもしれません。また、株主利益を犠牲にして、社会全体の利益を図るべき局面もありそうです。株主利益よりも、汚染物質を川に流さないことで、公害を防止すべきでしょう。では、会社の政治献金はどうでしょうか？考え方が分かれるかもしれません。

このように、社会の見通しが少し良くなったとき、法学の勉強が楽しいなと感じます。

法学の魅力

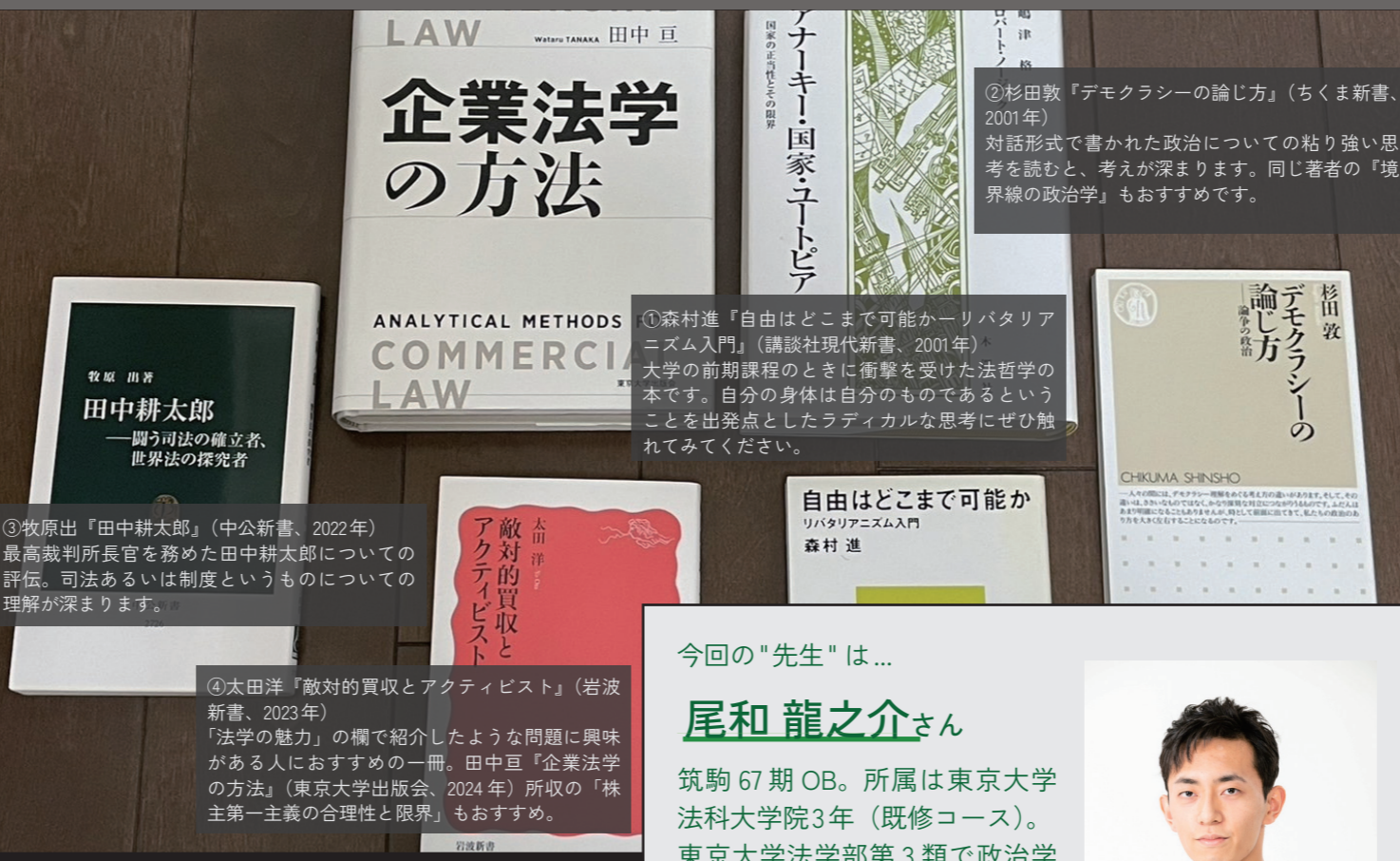


入門！ 法学

世の中にある数多の学問。

中高生の皆さんにとっては、「聞いたこともない」「名前しか知らない」「何をやっているかよく分からない」、そんな分野も沢山あるはず。このコーナーでは、各学問の学習や研究に取り組んでいる先輩を「先生」としてお呼びし、学問の内容や魅力を伝えて頂きます。

この一枚 筑駒のOBの方が書かれた、法学・政治学に関わる本を4冊紹介しようと思います。



②杉田敦『民主主義の論じ方』（ちくま新書、2001年）
対話形式で書かれた政治についての粘り強い思考を読むと、考えが深まります。同じ著者の『境界線の政治学』もおすすめです。

①森村進『自由はどこまで可能か—リベタリアニズム入門』（講談社現代新書、2001年）
大学の前期課程のときに衝撃を受けた法哲学の本です。自分の身体は自分のものであるということを出発点としたラディカルな思考にぜひ触れてみてください。

③牧原出『田中耕太郎』（中公新書、2022年）
最高裁判所長官を務めた田中耕太郎についての評伝。司法あるいは制度というものについての理解が深まります。

④太田洋『敵対的買収とアクティビスト』（岩波新書、2023年）
「法学の魅力」の欄で紹介したような問題に興味がある人におすすめの一冊。田中亘『企業法学の方法』（東京大学出版会、2024年）所収の「株主第一主義の合理性と限界」もおすすめ。

今回の"先生"は...

尾和 龍之介さん

筑駒 67期 OB。所属は東京大学法科大学院3年（既修コース）。東京大学法学部第3類で政治学を専攻し、成績優秀者に与えられる卓越を受賞。法学を学ぶためにロースクールに進学。中学は駒場棋院、高校は弁論部でそれぞれ全国大会出場。高3特別班は縁日班。

不完全な人間が作ってきた不完全な仕組みを学ぶ日々

先生の日常

“Out of the crooked timber of humanity, no straight thing was ever made.”という私の好きな文章があります。これは、思想家バーリンによるカントの英訳ですが、日本語に訳すとすれば、「人間という曲がった木材からは、完全に真っ直ぐなものを作ることはできない」ともなるでしょう。法学部やロースクールでは、不完全な人間が作ってきた不完全な仕組みを学ぶ日々です。しかし、先の引用に続けて、カントは「自然が人間に課すのは、この理想に近づくことのみである」とも述べています。実際、こうした不完全な仕組みをより良いものにしようとして、

失敗したり成功したりする経過を学ぶことは、とても興味深いことです。

東大の法学部では、法学も政治学も自由に履修することができる仕組みになっています。また、試験前以外は、自由に使える時間も多いため、自分のしたいことに取り組むことができるようになっていきます。学部時代は好きな時間に起きて、本を読む生活をしていました。ロースクールでは、学者の先生から最先端の法学の議論を学びつつ、自主ゼミなどを通じて司法試験に向けて勉強しています。実務家の先生のお話やインターン等を通じて、実務について知見を深めることができるのも楽しいです。

複雑な社会現象に向き合って考えることで見えてくる景色

もともと法学部では西洋政治思想史の勉強をしていたのですが、現在の社会についてもっと知りたいと思って、ロースクールに進学しました。進学前は、法学にいまいち馴染めずにいましたが、ロースクールで深く勉強するなかで、会社法をはじめとして法律の面白さに目覚めることができたのは大きな収穫でした。将来は、企業法務弁護士として、クライアントの利益のために闘うことを通じて、自分なりに社会に貢献したいと思っています。

中高時代から社会科の勉強は面白くて好きでしたが、数学に比べて非論理的なものではないかと不満でした。ただ、学びを深めるにつれ、洗練された分析枠組みは社会科学にもあるし、自然言語で社会について考えるという営みでこそ見えるものもあると感じるようになりました。数学や物理ができる人を見ると、何が見えているのだろうかという気持ちになりますが、複雑な社会現象に向き合って考えることで見えてくる景色もあると思います。

先生と法学

PASSPORT



#5 留学体験談 (UWC)

ここまで、留学の概要や短期留学、留学をするにあたっての資金確保やサポートプログラムの紹介をしてきました。今月号は、高校在学中の交換留学の体験談です。どのような理由で留学を決意し、何を感じたか、是非留学を検討する上での参考にしてみてください。

自己紹介

はじめまして。筑駒70期卒業生の阿部慧人といいます。在学中はサッカー部、語学部で活動し、特別班はステージ班でした。ここでは、自分が高校一年生の時にAFSという団体を通してアメリカに交換留学した時のことを振り返りつつ、高校留学について自分の思うことを書こうと思います。基本情報として、2019年の高校一年生の8月から2020年の高校二年生の3月いっぱいまでユタ州の公立高校に通っていました。本来は1年間のプログラムですが、新型コロナウイルスの影響で3月に強制帰国となりました。留学中は、グラフィックデザインや人文科学など日本の高校ではない授業をとり、課外活動では数学コンテストに出場し、クロスカントリー部として長距離走を走るなど、何でもチャレンジしました。自分の20年間の人生の中でもっとも濃密な1年間だったと今でも思います。しかし、決して楽というわけではありませんでした。、人として強く

留学のきっかけ

留学のきっかけは、中学3年生の時に母親に誘われて参加したAFSの留学説明会でした。そもそも高校生で留学するという選択肢を知らなかったのも、この時は「そんなこともできるのか」程度に思っていました。その一方で、筑駒中学入学当初から周りの優秀さに圧倒され、自分に自信を失いつつあったのもこの頃でした。周りの同級生と違ったことをすれば、自分にも何かできるという感覚ができるかもしれない、と思ったのが最初のモチベーションでした。他にも、好きな英語に打ち込みたい、新しいチャレンジをしてみたい、親元を離れて生活してみたい、と次第に気持ちは留学に傾いてきました。

筑駒生活、受験は大丈夫なのか？

この文章を読んでいる方の中には、「筑駒生活や受験勉強を犠牲にしているのか」という不安を抱えている人が少なからずいると思います。これは、僕自身も留学中も含めて常に悩まされていました。しかし、結論からいうとそんな不安は気にしなくていいです！留学で得た経験は、留学以降の生活でどれもプラスに働きます。それは留学を通して、人として強くなって帰ってこられるからです。

連載スケジュール

4月 海外留学のすゝめ
5月 高校短期留学の手引き
6月 留学奨学金の紹介
7月 サポートプログラムの紹介

8月 留学体験談 (UWC)
9月 留学体験談 (AFS)
10月 留学成功の秘訣
11月 留学経験者座談会

12月 英大学留学の体験談
1月 米大学留学の体験談
2月 海外大学受験の手引き
3月 大学での留学体験談

留学は「修行」である

僕は、留学を一種の「修行」だと考えています。世間では、留学中は世界の友達ができ毎日遊んで楽しい、というようなイメージが流布しています。しかし、実際は言語が伝わらない、友達ができないなど苦しい日々が最初は続きました。(僕が筑駒生活を愛しすぎていた反動もありますが...)それでも何のために来たのかを自分に言い聞かせて、1人の時も英語に触れる、新しいことにチャレンジする、人に話しかける、と少し無理をして頑張るのが留学だと思います。こうした生活は確かに疲れやすく、ストレスも溜まりやすいですが、同時に日本では得られない喜びや刺激があります。毎日、そのような環境で集中して留學生活をしていると、人として賢く、強くなることができます。鍛えられた精神力、キャパシティをもってすれば、受験勉強は帰国後以降の2年間で十分間に合います。(英語圏であれば英語はだいぶ余裕が生まれます。)

かけがえのない高校生活

高校生活は限られた時間しかなく、今でも恋しくなることがよくあります。ですが、留学をした時間を後悔したことは一度たりともありません。筑駒の温かいメンバーは帰国後も成長したあなたを歓迎してくれます。実際、高校生活後半の体育祭、文化祭は人一倍楽しんだ自信があります。留学で将来への投資をしつつ、帰ってきてからの筑駒生活も満喫できます。結局は日本に戻ってきてから、自分がいかに積極的に関われるかだと思います。

最後に少し話は変わりますが、留学を通して学んだことを1つ書こうと思います。それは「家族を大事にする」ということです。ご家庭にもよると思いますが、日本の中高生は週末も授業、塾、部活とあまり家族と時間を共にすることが少ないように思います。(僕も中学生は反抗期で親のことを無視していました笑)しかし、僕の行ったユタ州では、ホストファミリーがほとんど毎週末家族で共に行動し、家族でのコミュニケーションを極めて密にっていました。最初こそ慣れませんでした。自分の一番近くにこんなに自分を大切に思ってくれる人がいる、ということ。は不安の多い留學生活では心のよりどころになりました。そんな日々を過ごしているうちに家族との時間を大切にすることがいかに大事か気付かされ、帰国以降は実の家族ともより仲が良くなれた気がします。

これを機に一度自分と家族との関係を振り返ってみてくれると嬉しいです。ぜひ忙しい中高生活の中でも家族との時間をとるようにしてみてください。

執筆者紹介

阿部慧人

筑駒70期→東京大学理科一類→工学部電子情報学科



Komaba FLAP. 企業パートナーシップのご案内

NPO 法人 Komaba FLAP. では、児童生徒の才能支援に向けた様々な活動を実施しております。

研修プログラム等参加費支援

生徒の興味関心や意向に関する調査実施

科学オリンピック各種大会出場支援

広報誌や講座を通じた興味関心訴求

こうした活動をより多くの児童生徒に届けるため、活動趣旨に共感、ご協力戴ける個人様、企業様を募集しております。

個人様からの寄付

ご子息ご息女・特異な才能を持つ未来ある若者への支援にご協力ください。ご支援戴ける金額に合わせ、年間 12,000 円の賛助会員、年間 60,000 円の特別賛助会員を設定させて戴いております。



寄付受付ページ：
<https://komaba-flap.jp/donate/>

法人様との企業パートナーシップ

広報誌での企業ロゴ掲載の他、企業名を冠した奨学金の設置など、様々な形で協働できますと幸いです。金額、パッケージ等詳細は下記メールアドレスにご連絡いただき、ご相談させていただきます。

ご相談窓口：info@komaba-flap.jp

皆様からのご支援を賜れますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



無料LINE会員募集中！

- ◆ 興味関心に合わせて情報をお届け！
- ◆ 広報誌『FLAP.』読者プレゼントに応募可能！



LINE登録はこちらから

読者プレゼント

各特集ページのライターからオススメの1冊をプレゼント！

A賞：『寝ながら学べる構造主義』 1名

B賞：『Sophie's World』 1名

応募は公式LINEから！
専用フォームに今月のキーワード『マイケル・サンデル』を入力して応募してください！

応募締切：2024年11月30日(土)中

Komaba FLAP. 企業パートナーシップ

みなさまのお力添えで、学びはさらに深化します

GOLD PARTNER

